

京都大学の資金運用について

1.2兆円規模の基金造成

寄附金を始めとした外部資金収入を基金に組み入れ、それを原資に運用することにより国際卓越研究大学構想に掲げる25年後に1.2兆円規模※の大学独自基金を造成することを目指します。

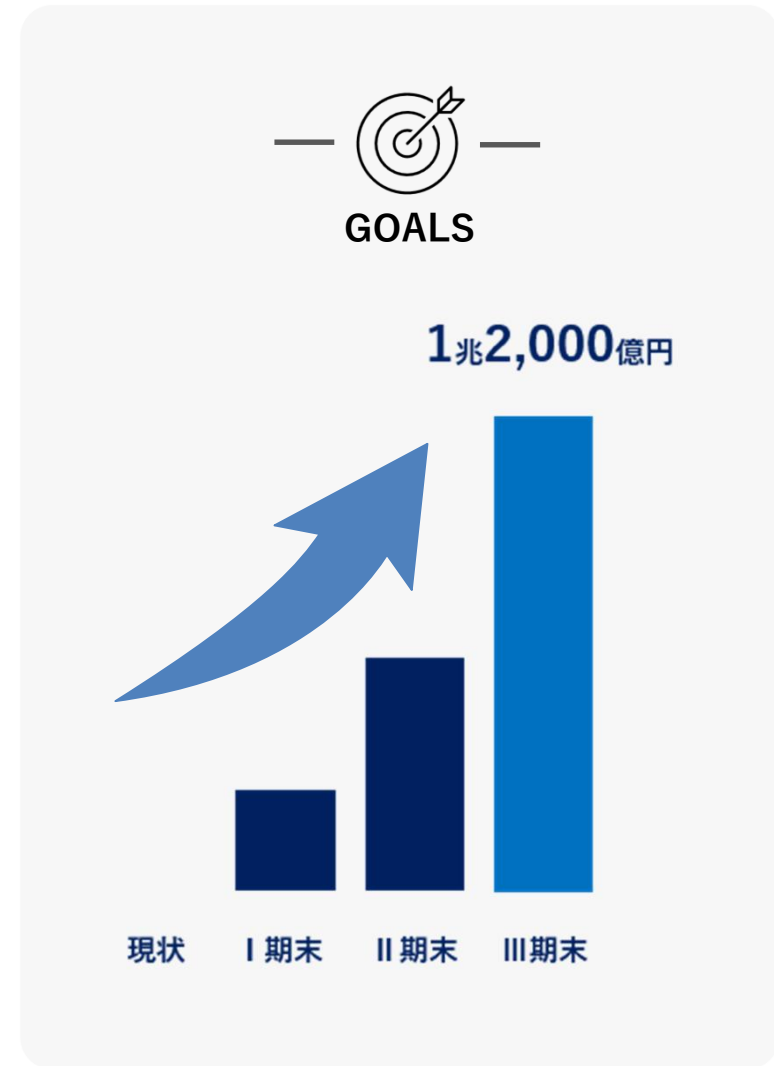
自律的成長モデルの確立

将来的に基金運用益による戦略的な資源配分を自律的に行える持続可能な財務基盤を築きます。

自律的運用体制の強化

将来的な運用規模発展を見据え、運用機能の内製化（高度化）を進め、持続可能な体制を構築します。

体制構築のため、4つのプロジェクトを展開しています。



※国際卓越研究大学とは：国際的に卓越した研究の展開及び経済社会に変化をもたらす研究成果の活用が相当程度見込まれる大学を国際卓越研究大学として認定し、当該大学が作成する国際卓越研究大学研究等体制強化計画に対して、大学ファンドによる助成を実施するもの。

プロジェクト1（現在進行中）

基本ポートフォリオの策定

■ 長期シミュレーションによる検証

└資産ごとの期待リターン・リスクを設定の上、目標資産額及びキャッシュフローの見通しを入力値とした長期シミュレーションを実施し、目標達成確率を検証・評価。

■ バランス型ポートフォリオを設定

└超長期での運用を前提とし、将来の市場変動リスクに備えるため、資産・通貨の分散に配慮したポートフォリオを検討。

※基本ポートフォリオについては、後日更新予定。

プロジェクト3

運用機関の選定

■ 伝統資産アクティブから

└伝統資産のアクティブ運用から選定を行い、ノウハウを蓄積したうえで、オルタナティブ資産へ着手。

■ 運用機関定性・定量評価情報の活用

└データベンダーやコンサルタントの定性・定量分析を活用し、適切な選定プロセスを確保するとともに、超過収益獲得へ向けた万全の体制構築。

プロジェクト2（現在進行中）

運用機関構成の設計

■ 投資可能資金の算定

└各年度における投資可能金額（運用原資）を算出・検証。

■ 資産別・運用機関別の配分設計

└各年度の基金組み入れスケジュールに合わせて、各資産・運用機関へ段階的に資金を投入する計画の策定。

プロジェクト4

実績管理基盤の構築

■ 横断的モニタリング

└複数運用機関のリスク、パフォーマンスを統合管理。

■ リスク管理の体制検討

└必要十分なリスク指標の計測開始。

将来的にリスク管理部門を独立させ、三線体制を検討。